

淡海地志

四 五

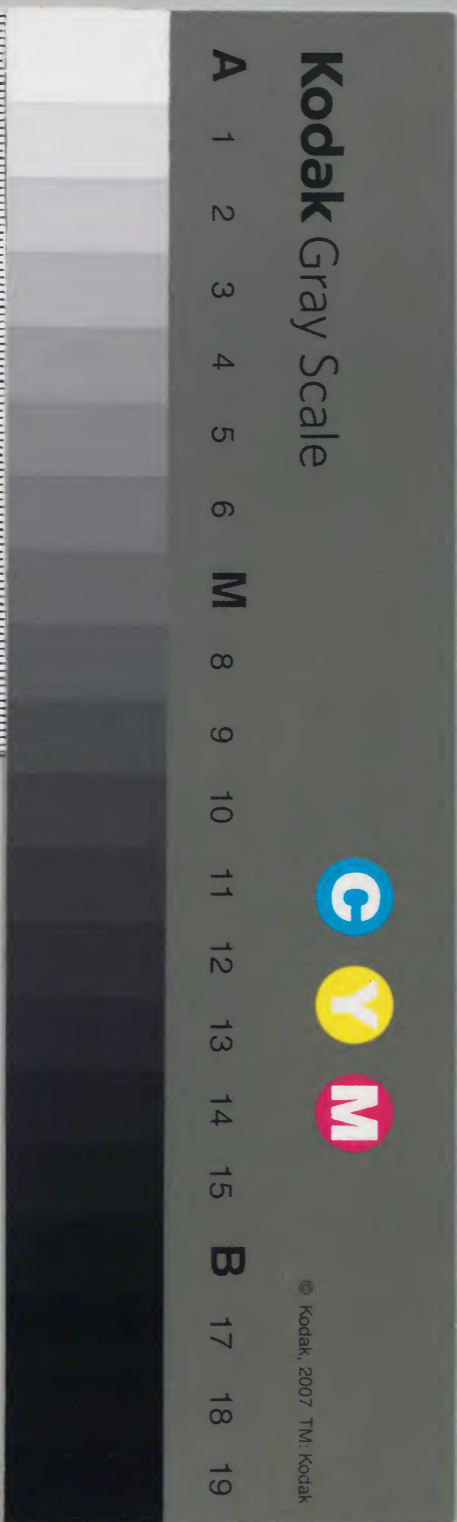
内閣文庫		和書
函架	二二八 二七八	類
冊	五	號



地七

内閣文庫

内閣文庫	
番號	和 22708
冊數	5 ( 3 )
函號	174 169



卷  
100

一、次、海、山、曰

大山、崇、一、巖、多、也、蓋、手、山、者、派、止、形、以、故

波、然、有、華、木、奇、山、者、土、之、要、也、山、上、有、石

曰、石、有、異、上、有、蓋、下、有、洞、洞、上、有、石、下、有、石、山

曰、石、有、異、上、有、蓋、下、有、洞、洞、上、有、石、下、有、石、山

曰、石、有、異、上、有、蓋、下、有、洞、洞、上、有、石、下、有、石、山

曰、石、有、異、上、有、蓋、下、有、洞、洞、上、有、石、下、有、石、山

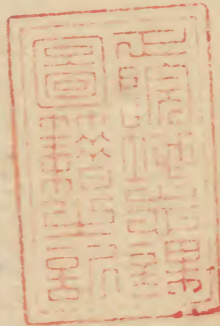
曰、石、有、異、上、有、蓋、下、有、洞、洞、上、有、石、下、有、石、山

曰、石、有、異、上、有、蓋、下、有、洞、洞、上、有、石、下、有、石、山

中、法、卷、之、八



淡海名山四



丙一〇九三六號

朽木文庫

夫山者石多也孟子山者波止形以故  
波紋者有鼻木子山者土之聚也山上有葱

下有銀上有薑下有銅錫上有菹下有餘山

有寶玉傍破皆下垂酉陽雜俎山有銀山多

雲霧湘州記五百歲天下名山一開開時金

王之精湧出漢武長等山ハヤハハ洩ケレド

昔ヨリ神臯仙館之地也三代帝王之勅願

寺四ヶ大寺其也山ハ唐青龍山似夕リ

遊御井寺黃磬唐僧即非  
 函歷中能宿湖傍 曉起徑行到上方  
 山色秀鐘王者氣 林花清沃御泉香  
 安禪俱是新傳戒 觸目無非古道場  
 勝槩宛然同我國 不知身已在他鄉  
 同 石川丈山  
 智證當年闡大乘 瑜伽密顯孰傳灯  
 雖然地似青龍寺 多是西川荔枝僧

顯輔

君代にあつた山の岩跡をふ度ハハひ花乃咲き  
 波はたつたの山乃あつて毎のつらに君の栄か  
 世に中といふひかたつたよふつらにきよなり乃山  
 頸唐湯をあひし  
 昔東慈園  
 三井山中名訓  
 峯いしる山と云ふ(まう)訓も 中ふふ小舟の訓も  
 鬼の岩 子石岩 之の岩 赤龍宮 小女  
 筒井 鏡谷 唐院 現在谷 墓塚 鼠坂

三栖杉山新川 仙人石 村雲橋 貧乏水  
彼坊坂護法五地 花の音 琴台 仙人石

三井十境

金堂白振 新羅夕蟬 龜冢曉霜 唐院夜雨 筒井  
喬松護法丹楓 琴谷冷螢 龍臺月  
靈窟古松正法眺 如意嵩 昔東山如意嶺慶  
保胤栖池地十リ又曰聖護院門主一代如意寺  
之号有卜云如意寺十房イニシハ有之  
卜云京へヨリシ山也天文十九年細川晴

元佐々木定頼如意嶽ニ城築魔境ニ有  
災廢城云云

志賀宇佐山古城山也

敵山初曰日枝山大日枝小日枝中峰西塔寺横川

禪敵山異名比敵大嶽鷲山鷲峰

我立杣 天台山 良峰 敵峰 台嶺

敵阜 台峯 波母山 四明洞 杉洞川

礮取盧島 木朝五岳之一山七高山一山

愛宿一鳥居ヨリ比敵山ヲ見レ 駿河之

富士ヲ見ルニ同シト云出倣正記伊勢物  
 語ニモ見夕リ南無勤寺又叡南トモ云爲  
 絶景東塔四谷アリ西塔ニ三谷アリ横川  
 飯室 八王子山 戒心谷 解脱谷  
 都卒谷 樺生谷 丹那 金子山 不動坂  
 不二ツ 今路 古路 白鳥園 水飲峠  
 凡生山<sup>ウリヤ</sup> 香呂岡 松尾坂 能美山  
 音無瀧 四明洞 天台山 寒風ヶ嶽  
 赤坂 鎌倉力淵 キリウカ瀧 天梯<sup>アスカケ</sup>

名所未悉記 山頭高聳護白羊城下鏡玉盤照四明三  
 智松風恒凜浮雲晴去物襟清出人鏡論

山豎六所ト云將門純友登此山都大内遠  
 見シテ謀反ト云云出神皇正統記

應制北叡山

近當東北良爲山台家三千護帝衆從一叡

文北聖教津々春色入天顔

北叡山 林道春

良嶽從來守紫宸 先生立作國家鎮

雲波五色三津浦 星斗千年七社神

湖水豚騰空得月 山櫻寂寞自過春  
好風景非無意 吾亦東西南北人

登天台麓觀意羽瀑 大山

巨石岬嶮峭壁邊 天台瀑布漲泡淵

岩崖飛玉泉竄 雪浪噴雷澗壑穿

黃壁安知歸大海 青蓮遙看掛長川

靈蹤澹寂無人到 山月山雲度万年 法印成運

跡々非代とて大ひくや小の松より云 竟仁

大いやくた立ふかと云 輪の非徒

幾多とつと松の蔭とありて山乃いあ 花大徳正公澄

山乃いみ流我ありと云 之

ゆきくぬの佛の云 之

いし 之

と海 之

巖峰暮雪

建仁紹柏

良岳由來護九重 近濃遠淡爲君容 カネノクリス

晚風吹雪千層頂 始信詞人擬士峰 白川推喬

時多法家雲ハハへの峯らして名よさやけき 以えの只

望比叡山

熊谷立閑

良嶽巍々列碧天

英靈長作帝家鎮

瑞雲倚疊楫朝日

山色湖光一樣春

比良山堅八町ト云七高山一也山頭無樹

リ一廿、ノ三熊スメリ後山次ハ夕山ト

云有寅、年大地震山崩ツル朽木若州道

也

比良山獅子谷ノ八境

無露頂

佛座峰

紫雲嶺

法華灘

櫻排溪

瀑布泉

栗原村

龍華村

新古

後山

千載

花さくしりしの山風吹より漕ゆ舟の流るるまで

桜花の吹くよふよまの浦浪 長中將

釋靜安當栖比良山讀十二拂名經礼拜修

懺其聲聞帝闕 書 高大夫公輔元慈覺大

師弟子堪慶阿闍梨云何縁大内伺候春宮

御母通支露顯執執政忠公聞之即令還俗



号高公輔皇后宮大進式部權少輔讚岐守  
被補赴任國道有舊堂木象兩双鬘茶羅有  
經年後諸尊座位散謾鞭以云此佛彼御座  
此菩薩此へハセヨ十レト云ケレハ如其  
教導皆被居直後公輔比良山隱居鹿來爲  
此人被食

比良

釋月波

比良山聳碧空邊 一頂就中高外天  
雪後忽看皆白處 初智露不侵兩巔

山小松山華

乙未三月廿七日秋也多記鼠吹小松の邊に鹿乃鳴る定家

打下白鬚大明神社有

神社考云傳記石小  
記神祇正宗云本地

猿也大成經曰猿田彦命亦名知地歲命

奉隨日神之狹子堆十尊

永祿五戌九月十九日白鬚大明神前海一

所汀石華表顯出同廿四日失鳥居并殿海

邊了り

四十八躰入石佛尸此内二十躰坂本慈

眼大師廟前有之石也上云二十  
敵山山王院千手像者傳教大師之所安也  
其木像有此山常放光示瑞因作像  
高島白蓮山長谷觀音靈木出也  
舊記曰或時三尾明神化老翁在島郡衛護  
靈木靈木移而到和州葛下郡神河浦比丘  
道明取其木命佛工彫刻十一面觀音二丈  
六尺之像即今長谷觀音是也其靈木白蓮  
山出於蓮華谷

釋嵐齋

高仰白蓮山上巔素聞靈木送年々分身三  
昧補陀境眼累光春色鮮ナリ

蓮華山下有寺曰蓮谷寺

逢坂山關所本道或作合坂會坂相坂王坂任云

昔仲哀天皇崩御之後別腹王子忍熊王神  
功皇后謀以弔治責落跡尋往敵味方主容  
相逢坂十ニ依相坂卜云忍熊王戰負缺  
田川ニ身投泉色葉集出又曰延喜帝王第  
前代記出

四宮所流離地也以逢坂改書

五大院安然者八地菩薩也ト云然不免貧

極困自天王貧道救給トテ試自關路入

浴中金銀米錢布綿之類轉一日被領安然

其日一駄無過者信感光葉爲懺悔云三國傳記

後拾あきくよけ逢坂と云いせハ寺之ぬ涙ハせき多く又し新武將

後撰逢坂乃ゆかりなりけり多の多はあさるめすを逢坂見敏行

いさか逢坂乃ゆかりなりけり多の多はあさるめすを逢坂見敏行

あまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

くまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

あまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

あまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

あまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

あまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

あまのきやうきよまのまゝあむと別道の後又あつんと隆祐朝臣

逢坂ノ風先不耐春野梅何意獨舒神關門

自古通名利征客多追馬足塵平野院

關<sup>ヲ</sup>被<sup>レ</sup>置<sup>ル</sup>事<sup>ハ</sup>。文德天皇安元置關<sup>ヲ</sup>於<sup>テ</sup>逢坂<sup>長見</sup>  
等桓武御宇三關置<sup>ニ</sup>鈴鹿<sup>伊</sup>不破<sup>美</sup>逢坂<sup>近江</sup>  
又云勢田橋<sup>關所</sup>入勢田川<sup>下</sup>ニ關津アリ  
木曾合戰之時八島瀨<sup>ヲ</sup>渡ルト云  
爰ニ人數<sup>ヲ</sup>積<sup>リ</sup>シ千騎ノ野ト云アリ  
堅田<sup>木</sup>濱<sup>北</sup>一町ノ船渡此<sup>ニ</sup>關所<sup>ニ</sup>入堅田<sup>關濱</sup>云大津湖山寺麓ニ小田<sup>アリ</sup>此所<sup>ニ</sup>  
カシ大津ノ關所ニテアリシト云應永十三  
年天下大風大水<sup>ニ</sup>入勅命ニテ此地<sup>ニ</sup>ハ幡

宮<sup>ヲ</sup>遷座而号<sup>ニ</sup>若宮<sup>ハ</sup>幡宮山<sup>云</sup>月照山<sup>貞享</sup>  
三年秋月立本寺上人隱居于此<sup>夷地得<sup>レ</sup>石</sup>  
三尺餘有銘古之下馬也旁營常行堂<sup>為社</sup>  
僧東ニテハ摺針峠此<sup>ハ</sup>東ヨリ上ルニハ  
坂十夕<sup>ラ</sup>カ十<sup>リ</sup>西ヨリ上ルニハケ<sup>ワ</sup>シ  
キ十<sup>リ</sup>美濃坂北ニテハ箕浦<sup>太尾</sup>柳<sup>カ</sup>瀨  
イタ<sup>ト</sup>リ峠越前坂伊勢坂鈴鹿西<sup>ハ</sup>朽木  
市場小茅村峠小關越  
山中越イニニ<sup>ハ</sup>ヨリ少々軍アリ<sup>シ</sup>所也

大友之時安阿鳥籠山東北之防所トス日本  
紀今關者水口御番所北梁ヶ自彦根番所  
出越前改女イヌトリ虎技峠越前綿關所自越番所  
足田上リ女ヲ改自若州支配此天隅下リ女ヲ改  
朽木山中番所自朽木支配自若熊川番所  
有午向山昔杉多今ハ松多山下關明神社  
有道祖神ト云  
なまきりやの宮乃郭公まきのぬきと五あぬ也 家隆  
小田原陣中ニ秀吉公東武北條氏政責給時

大津上關明神天下御祈禱連歌百韻アリ  
明神奉納  
天正十八年六月十八日地走人浅野彈正  
少弼長政  
連歌發句  
改て於流しす家流るわ那  
あけり山嶽は流る松むし  
花ち道ハ嵐の風を吹くて  
昌也

くろく枕の上み志んが村  
わけと袂より〜地の月

下界

牛尾山

山城の山々通し南湖に從テ見ル  
鼓ヶ嶽ト云祿高山トモトツムカシ  
行敵吾士東ヲサシ飛去止復此山故建普陀洛山  
峯越

名牛尾山法嚴寺洛東清水奥院是也ト云本  
尊千手觀音天智天皇製作ト云傳本道音羽  
村ヨリ入溪間十八町地累好大津ヨリ山  
迄本道二里山越徑五十丁松木山膳所山  
方ヨリ登ル道也

岩間山山城

石山に五十町醍醐五十町

石山奇石怪巖天生莊觀也

黒津大日山竹生島旁十カレテ此止山也云

篠生サカ高タケ高峰也上有觀音

田上のさふの峻の時ぬめりやまら乃石葉志ぬらん後九条

飯尊寺山高山迄坂八町如立屏風甲賀谷

之守本尊也

石部金勝寺山

石部金山

田上不動山也高山 又曰太神山昔天照太神  
北峰降給故云尔

三上山又曰松山松栖谷比良嵩云

世傳云三上山者昔富士權現一夜中築出  
富山林迹瀦為湖今残半篁成山此三上山  
也故富士登山行人幾日齊焉近江人者一  
夜精進上若右山中欲既荒時呼近江々々

則止矣

志の浦や時めて渡り浮雲よ三上の山社なるそら々々

拾遺 ちよや旅三上の山志柳本紫はさる多し海さう於百世とよ

於須抄

ときり外りえうと此山の松しくや八百年代の志方なるらん

新抄

くろみ三上山とわうけて夢漸流りぬや島川波 後系極

雲ハ向くこの山乃秋風よさう波をくお頭月影靜の歌王

大成經北二云仲哀天皇庚子淡海

三上山國不知足彦ト云者女不知好媛君

生一美九石形如雞卯子如大サ如雞

卯十夜ノ間成丈日日長成山人名此

山曰彦神

櫻山三上、中、南櫻北櫻ト云有三上半腹家  
百土器自此出

三上は家柄の山乃さぐをちやいよとありしと云ふ  
松うえは枝さうかきさぐを花とあまの世のまや包ソへ俊成

鏡山昔鏡大君此處聞死則處ニ薨セシヨ

リ鏡山ト名リ

かゝる山いとまうして又そほつし年一ぬ多身、老一ぬやと

らふはうらわれあまの淡山はこれや此れの色も又ほろよ

世歌ゆ一晴天俄よ暑と云常徳院歌也 出塵塚

抱き取りまうとやあゝ又ひ淡山おいの妻のなまにさう山深達明

花乃をさうつーと又淡山まうはれ歌やも方と是則

万代とあまうさうえん淡山あまの世の色もあまも暑らん中昔

あまの世後の山はさうこれかひてうらほろ君あまの世ハ古原

うらハ今上の世のあまこれうら

あまこれかみれ山乃まうばうまにかまそや代中最隆

多尾尾山甲賀 一あち山荒血山阿死子山ト云

あち山まはらうまあめれ海はの里よりこれゆりつ

岩根山 甲賀



錦面山 高山又大河原山氏云 八峯山氏云  
 藏王山 南北有日野谷此山ヨリ岩木出薪用  
 布引山 日野有日野ヨリ一里半下有長三四里續  
 織山 觀音山々々の糸薬師の山横山龍ヶ鼻 惣山ヲ  
山也  
さぬき山云  
 荒神山 一金山君カ畑有銀山也  
 八幡山 一西ヶヶ山 近江ト伊勢堺  
山半分ヨリケ  
 安土山 一牛尾山布引山三里 續八日市ト  
岡本ト間也  
 一伊庭山 一甲辛山彦根近  
 一佐和城山 一地頭山 さく山ノ近

一多賀山 觀音有多賀、奥一勝山 大權現佐和山攻玉  
此山陣取玉山也其正法寺  
上者  
 一池寺山 妙音山  
 一南靈山 一岩倉山 南都  
 一和つき山 あへり山 一白山寺山  
 一おくら山 おくら山大塔ノ上ニ  
寺山軍場ト云 一愛宕山 さくら古城山田  
 一常の山 一炭根大塔山云  
 一鳥籠山  
 あつちのちのち乃枕みお引いて話さくありこの山凡  
 吹るゝぬ床の山凡おむしころは夜もくすく私の月影

一 磯山 古城山也善積郡也

一 伊吹山 伊福貴 伊吹 瞻吹 異吹

伊布貴 意布伎 伊夫伎

七高山其一也美濃越前近江三箇國跨山也登山五月前九月過山荒難攀伊吹禪定云予詣也麓先達有之云云

山上澗々名野妃青天雲晴時八駿河之富士熊野山越前助カ嶽見美濃尾張眼下見頂上<sup>ナカクホ</sup>凹<sup>ナカクホ</sup>十<sup>ナカクホ</sup>几<sup>ナカクホ</sup>所<sup>ナカクホ</sup>石<sup>ナカクホ</sup>夕<sup>ナカクホ</sup>三<sup>ナカクホ</sup>其中<sup>ナカクホ</sup>石佛

在下云近江姊川三ノ一藤川大河常ニ流ル此山ノ滴十リ

源頼光傳云昔酒顛童子住此山受勅頼光追討之世云酒顛童子此也<sup>出百將</sup>

伊吹弥三郎栖于此山往々爲舊迹後井口大明神勸請初盜賊惡行此時佐々木受命終計之出百將傳伊吹弥三郎傳記詳<sup>出三國傳記</sup>飛行上人住此山修驗行者也此山ヨリ<sup>北四草</sup>藥草多出山中香矣<sup>大根出</sup>

冬ぬく野ハぬしあふれつゝ秋の和も香障より好  
おもよそえいそいおきの雨もささこしとて色くぬれ  
香分てありはつあきの嵐はぬらつらつび園の菖川 秀能  
秋とやく色よとえひつゝぬきしむて久した下のさび定家  
あつゝ伊吹の山の秋乃露とあつらふ松虫の志 乃徳院

一 大尾山 箕浦 平系三有之ト云

一 摺針山 昔叟 鋤ヲトキケルヲ人ノ間ニ叟  
答云 針ニトキヘラサント云シヨリ

此所ノ号ニ名ト云

一 雄谷山 淺井城山也前虎御前山ト云アリ

一 田神山 下野山 田部山 馬上山 北馬上  
南馬上

一 長免山 昔木本ニ都ヲ移サレヘキト有シ時一夜ニ此山  
生スル故都ヲ移事ヤミマ山ハ得其号ニ里俗説

一 巳高山 伊香此山ニ觀音堂有淺井時勸請  
今伊香郡ノ守本尊也

一 志津嵩 伊香

一 山本山 朝日山ト云

くまの山を其のあかりはあやむる朝日乃里公光アコト云

阿比日と山本山のまゝを記す 出歌書

阿比日と山本山のまゝを記す 出歌書

八相ヶ嶽越前の山ありしうき保壽の軍北国界ハ此  
所ニ此スト云

一 管山寺山

一 海津大湯峯ノ欽善山大湯も大津へ行及ニッ

あり一六とちやう紙一ハまんぢ紙那布弘法大師世山中  
石塔を建銘ノ卅字板云下

一 水尾山 島

いさありたりゆのちゆへいさうし本城もやあかん  
たりしやうとのちまやみ流れてちりてちるのちりきみ

一 山名 道坂の東の山名と云と云道坂山の奇の月

大掌會主基奇

奇ぬれハいさ山はあまをささまふあうふまより村  
あやめりいやり山乃あまをささまふあうふまより村  
滋賀樂山

あうまをささまふぬれハ志うし記の松山跡うぬん  
志うまのあまをささまふてあうまの海と又時多記  
左大臣

一 守山

守山 志うまのあまをささまふてあうまの海と又時多記  
左大臣

いづれ神女とせよと宿り多し由なく志道とくふりて いさこのひら

白鳥と時をいづくも小をり世のうけなきより貫之

いづれ神女と人めとわりし代流と時をいづくも出あえ 成長

夜とをくまう一人めも山はうちぬくちとあのみや 定家

あちの秋のいさめよむら山はり秋の色と恋のや家隆

川河 セシイアセ 糸井為川幾深記大河とて海のふりこよ不及

これハ湖水の深ク傳云七十二尋百尋云補齊記日

丸の深サ三十町海の深サ六十町と云西山の間ニハ必  
有川者也 有川崎心不深有淵者也

勢田河大小橋二有 小橋 ハ七間 大橋 ハ六間

中ノ島之間十五間傳云後申多院御宇恩性

律師初造レ之橋瀬田勢田長橋唐橋大橋也

書亦とくろきの橋也

由き板と苔のすくくあまより兼代流ぬんせいの長

水調お終る海なる末流のせきの長橋をいづくも

仍長橋とくろきの橋といふ事

旅人とも川河多しとくろきよりまくゆりかきろきの橋

お坂の園より秋風ハ勢田橋より立海へ人

法興寺の神像の古本は長橋の記

記得鞞多形鞞奇 古來幾度戰於斯  
 牡橫河漢月中影 龍卧阿房宮裏姿  
 大友不全儲賊位 春時早破弱王師  
 兵家唯有絶橋術 替水旱謀更不知  
 勢田川下ニテ二尾曾東ニテハ常船渡  
 勢田川多羅尾の方より流出  
 黒津川田上川共云関津川トモ云  
牧村ニテハ家隆ノ  
渡一カ也  
 なるをせとの河影やあつてふくふく  
 月影のたつと河のきよけきあつて水質のよき

一 草津川上テ金勝寺川下下日川ト云

一 水口川横手川船渡甲賀谷ヨリ出拙川ト云 サラ川田  
丸川フ川下海道ニテ野洲川舟者

十六夜日記 昔ひとみふも流るとも知きてこま打流はやと川乃きや

友の日もや此の川北柳陰夕凡之ぬと一海一仲實

やと川むれをあまふまふたると世宗の世とス俊成

三 保川二保通保共書上六描田川日野うらト

川下ニ横関川亦あり

愛智川エチノ川 上わあると川名との就を海に分漕と五里之水  
中ハ江後常ニ舟取ハ云川故ヲ傳云智ヨリ  
流津ハ勝へ通其時ハ必川水出後人ト流死事

ありと云

一言宮川 大上川 いさや川と云

あやふら底の山ありいさや川いさや川と云くよつ谷りて分

一大堰川 下ニテ善利川彦根の也堰ノ川也

一飯村川 上醍井川中箕浦下新妻川舟後

共夜目元  
むきあまよふと家心と云く他あり浮世の暮や醍井の暮

一姉川 水上浮吹

一言渡川 あり上ハリリ流 上ニ大明神川ト云

一落合村川 西後あり川わくく川度玉川  
あり落合一河ニ流

一かづ川 余湖言お尾上へ出取下尾上川ト云

一舟木川 西湖一帯ノ大河也アツ川共新居川共西後  
上杉本丹波境ノ流出河尾川ト在

言ふはあくの川波きつくと我をいとれり小菰ぬかきと

一大海ニ加蘇川上ニテ八田川

一小松 荒川 荒川村ト云る大河アリ 砥川ニテ常ハあり  
け川ヲ今あり川ト云

一佐川ト云生石ノ右右大川

一東川 大津

あかいきや熱と出くいとるやとある川と云しと云く

一関小河口

多相小お家ありしあ後乃国乃と川は綿と云く後成

一 老上川 ヲトカミ 野添<sub>ニ</sub>有  
 一 屋棟川 ヤシムネ 小堤<sub>ニ</sub>有 一 あひ川  
 一 小幡川 橋有 一 せんくし川  
 一 ウソ川 一 三ツヤ川 小橋有  
 一 ちどい川 多分地乾村(内川水運而流云又り其川  
 一 やくし川 橋有系系 一 ちり川 磯山を  
 一 草野川 橋有くく子橋と云小谷か  
 一 目置川 海津 一 宮川 山王宮前<sub>ニ</sub>流  
 一 衣川 一 山上川 沢川<sub>ニ</sub>云

夕々れハ物ありおとくぬよせはの小川の多し  
 一 常川 卍町 橋と常盤橋と云松本村を 川と云  
 一 小橋と常ノ取前と云取川とつ川と云  
 一 池かつぬ松よすくして系橋のときハの松よかゝ家多浪  
 一 ちげ川 橋有  
 一 木曾川 同  
 一 ありこノ川 小橋有せく松系有  
 一 中山川 せくも  
 一 ちりよ川 平津<sub>ヒラ</sub>こも



- 一 ありき橋 鏡も
- 一 八幡山 宮前橋
- 一 彦根せり川橋
- 一 本太ノ古橋 假橋ありし
- 一 三井村 雲橋
- 一 多賀ノ石 くりり
- 一 いさや川ハ 彦根のちや川  
日あり
- 一 黒血川 黒あり 守屋の頭ヲ洗  
ありり 世ハ右軍ノ下出之
- 一 天海橋 くりり川 くりり
- 一 尾花ノ慈野川 小橋を
- 一 長命寺 飯合ノ橋
- 一 九人どのひのせり橋
- 一 山むノ大橋
- 一 土山 白川橋

- 一 くりり川の橋 荒形山 くりり川  
橋西若州之川
- 一 西新橋 くりり川
- 一 石田川
- 一 くりり川
- 一 湖上古跡塚
- 一 木曾塚 大津馬場村ニ有
- 一 系緒云 左馬頭義朝弟義賢嫡左馬頭朝日
- 一 將軍木曾冠者義仲 自江州粟津ニテ景
- 一 粟津松林之中ニ有源義仲之墓 蓋按義仲及

入浴自燒禁闕辱王候軍中携其罷妾巴女  
終陷粟津田澤之中自殺楚項羽非異日之  
談因題古風一篇 見石鼎西歸錄  
項羽允暴悍 一炬燒感陽 壯氣覆天下  
大楚稱霸王 當厥桀食竭 該下徒悲傷  
虞姬帳中飲 慷慨泣數行 千里雖不逝  
陷死大澤傍 終成烏江鬼 血食無廟堂  
從來兵家術 須知柔勝剛 偶經義仲墓  
荒蔓露瀼々 後鑑戒覆轍 二將今剛亡

木曾塚

閻齊

木曾昔日冠王都 塚上誰栽柿一株  
死地縱然和物變 暴名可必與天俱  
三軍將師捲旌旗 鋒刃寄身勢已萎  
五百年來無限恨 日曛塚上水風悲  
一詭日國保神社有二勸請木曾與巴云

巴戰粟津

春信

粟津原上勇威馳

鬢髮如雲陣氣奇

残雪途窮雖不逝 快看巴女勝虞姬

兼平塚 膳所松原ノ田畔ニ一株ノ松有下塚自膳所城主建石塔

軍門命賤獨抽忠 時運空哀失戰功

日暮孤雲春寂寞 年々荒草偃雄風

出勢陽遊記

一紫式部塚 石山有

一頼朝卿塚 同乳人ノ塚石山有

鎌倉右大將源頼朝公ノ乳人亀谷善女夫

掃部頭親義山城邊反逆者有親義誓此毘

汝門天其歎勝因之立一字云勝南院本尊

毘沙門石南國保コト舊跡あり所々ハ云石山奥院

一小町塚 此謂昔山伏塚也不小町塚

鳥居木小町宿塚有大津関古七旧跡あり

徒然草小野小町の事きいめてさうりありは書也

評云玉造小町ト及小野小町共曰一人也説アリ

又二人見説アリ 此不能詳記

一小町今改関古多コトよ徘徊志ける時よありト云

哀なり我身此よりやあふみよりはなれど多の良辰と云ハ

同草庵の種子事付る家とありん

流多き多と身結之らんといふ志つゝのれは

又小町草子あり

一猿丸大夫 栗本郡回上あり

長崎の守文記云回上川に流る猿丸大夫の墓と云ぬと書  
有る所云回上といふ名を云ふ猿丸大夫の墓有と云

尋猿丸舊跡記

過勢多橋就南入勢多山中出松山下沿河  
畔而抵大日山直下八鳥供御瀬也 有民村  
曰黒津自此涉回上川過關津至干大石實

可觀焉在右川川多奇石布置巧妙而如人  
之故作趣也渡獨木橋至櫻谷有祠曰櫻谷  
宮古木森々閔宮有血宮之後曰鹿飛厥岩  
瑰奇如鐳流水如藍激石如絲已入百谷山  
有百谷故名過谷則曾東村也自勢多至此  
凡三里餘矣問猿丸大夫舊跡村老指曰去  
此一里許有猿丸祠其地名猿丸顛又有池  
稱猿丸池余即蹟焉烟雨霏々濕衣山徑杳  
冥然到山顛則有叢祠余拂榛棘而上時有

僕折楫來卽地之低喝不奧山歌兩三編揖而  
起矣歸村又問曰猿丸巔幽邃則幽邃矣然  
吾想非古人之可棲止者疑是其遊歷之處  
也倘別無下稱猿丸之居者耶村老答曰溪上  
有岩居或謂之之猿丸舊栖相傳喜撰法師自  
宇治山此來信宿去是乎余曰是也干時日  
景頌而雨又催因心期又七日乃歸終出六百谷  
既日昏矣不得已宿淀村民家燒楫拙而燥  
衣倦欲就眠余未藁束倚之睡天明矣同遊

曰吾今聞之超白洲渡至彼岩居危乎一里  
乞尋之可乎雖期二它後亦知何日也余曰然  
也因而登舟水急如箭隸卒掩目篙子不勤  
從水之力操竿如遺到岸卽行溪間竒絕往  
々可記是則琵琶湖之下流所謂稱海老尾者  
也遂見岩居其岩圍青山臨碧水其下百武  
許有鉅岩突兀者高可十丈佳趣甚多空翠之  
中不可久留呼非有仙風道骨豈能堪棲遲  
乎既而經畑村出石山它日欲討之必可從

石山<sup>二</sup>入<sup>レ</sup>先見岩居而后抵<sup>二</sup>曾束村或攀猿丸<sup>中</sup>巔也若追慕<sup>二</sup>長明<sup>ノ</sup>之故事<sup>一</sup>涉<sup>二</sup>田上川<sup>一</sup>亦可也  
 余略記之以爲後來追遊者之司南甲辰之  
 秋九月十七日宿膳所記之

一太子塚 栗本郡下物村有鐘山近邊

一糟<sup>ツラフ</sup> 栗本郡安長寺村<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>所<sup>一</sup> 栗本<sup>ヲ</sup>切倒

一灰塚 燒<sup>マ</sup>て<sup>レ</sup>灰<sup>ト</sup>集<sup>テ</sup>塚<sup>ト</sup>ス<sup>ト</sup>云

一慶祚塚 三井ノ尾藏寺ノ竹林有詳出長等記

一安然塚 三井ノ近杵山有長等記女出

一魚塚 三井新羅ノ森ニ有教待鈎<sup>ツル</sup>干湖<sup>一</sup>喰  
龜埋其稟<sup>ノ</sup>奠地也

一定家卿塚 敵山飯室有<sup>ト</sup>云

一惠心塚 同上 一源惡源太義平塚 石山ニ有今知者難矣

一慈忍塚 同上 石山有藏寺<sup>ハ</sup>世尊院此也<sup>ト</sup>云傳<sup>フ</sup>

一光定塚 同上 一伊野口彈正塚 石番場地頭山有淺井古備前守身督立切腹塚

一日蓮塚 同上 一井伊直政塚 彦根傳馬町長性寺有

一蟻塚 横川有 一高宮參河守代塚 高宮正西寺有時宗寺ナリ

一平塔塚 大津長案寺ノ竹林有

昔關寺木尊名弥勒日本三大佛<sup>ノ</sup>其一也弥勒堂

建時一牛到林木悉山上迄引登後牛死告靈夢於衆僧因之築之名云靈牛塔或曰迦葉塔古供蓮糸之今廢而智者辨也長明無名抄又因の流る此事有ると云石塔の下一反中下流水と因北山河と云又此千塔の記菅原氏より出記し行成は筆跡世にあると云塔中納り佛舍利とて近松の谷と云と云又云塔下金雞と埋故畔と雞塚共云伊予慶長ノ乱大軍け山上を聚其時塔ヲ破り崩れ云今倒つたなり也

一 鱒塚 土山有昔此谷有大蟹損人爰旅僧

會之築塚上植松云云

郭素爲妖何世時 武人勇悍乍討夷  
不投畢卓甕間去 路畔空存一石基

右出癸未紀行

一 鏡大居士申ノ乱於東湖闘死築其地名曰鏡山

多賀曾我寺有 曾我兄弟ノ塚有鬼王

一 中川清秀 天正ノ乱於志津嵩闘死築塚ヲ黒田大岩山ト云所有ト云

一 五社塚 在横川下一并天塚 條原田中有

一 日像塚 八崎ノ内今濱有一日野大納言塚 抑椿植 相原三有事 坐太平記

一 狐塚 伊香ノ東野有

一 狐塚 浅井郡烈毛村有 昔其村小左衛門云者アリカレ 屋敷ニ栖狐故烈毛ノ小左衛門ト云

一 京六原 没落ノ時近江番場迄落來終爰ニテ

各自殺塚有 蓮臺寺ト云

一 宗盛卿塚 守山有之云云

島興

一 竹生島 一里四方島人王十二代景行天皇



十二年湖島生有故云竹生島廻以繩捲之  
兩許則有二十一町也島外濱有百尋云竹  
之事實舊事本紀曰高天ノ主神ノ誕時一木靈

父尊ミコト膝其長高ト千尋常綠ニ性強シ內虛有  
天袋又有上節ウヘノフビ下節是皇天心草也諸草中  
故名号曰竹トカワ父尊ミコト移之植テ於ニ誕處ニ此竹

神生續テ未終世ニ是皇王スメキミ金草也

一 毛卜島 卜云有竹島傍有入云一、口島共云  
竹生島卜云、口島ト間マ纒マ六七間有每三月



三日二八竹生島江繫古實リ一  
竹島二町四方小島也彦根松原リ五十町隔  
海坂竹島江世所此八坂島也卜云景多故盡  
多景島云此寺有見塔寺云法華宗也緣起  
出草山集

多景島鐘銘并序

海中之有多景島舊名竹島相傳與竹生  
島同自金輪際出矣而眺乎其土也所謂三  
萬六玻璃七十二螺髻盡在阿堵中因此亦

名多景島振古未聞人之棲遲明曆中妙法  
寺慈雲法師感夢之瑞始開此島乃造七層  
石浮圖而建其巔塔高三丈如突然湧出也  
其開島建塔之際見種種之勝異  
錄而在記不備此焉法師常觀衆生海也持  
可憐者殺業之徒矣目爲下江湖七之浦業漢  
捕者於此島上堅一鉅石塔長夜燃燈三時  
鳴鐘常轉妙法輪以救彼昔因也而今諸願  
既滿唯鐘未就干時有一信女稱妙與下自捨

黃金若干以成其功善心不孤助之者亦有  
之法師迺囑家兄某衰鐘之事且求蒙辭而  
銘之惟昔者靈山會上有七寶塔從地湧出  
住于虛空古佛在中證彼妙法何曰地也心  
地之謂也何云空也義空之謂也法師一念  
之願力既開此島及造塔鑄鐘悉是莫不從  
心地出而住于第一義空也夫義空者何也  
妙法者何也心也此心具諸法猶如此島含  
多景也世尊於此演說妙法多寶於此證明

妙法與靈山寶塔無二無別四衆皆觀仍曰  
見寶塔寺銘曰

龍天久護金僊窟

金光入夢現佛白

便見寶塔忽湧出

神運鬼工如風疾

又鑄洪鐘聲應律

鐵圍幽暗悉通徹

百千釋迦演妙法

種々音聲總歸一

袍休蘭羅證皆實

聞此者靡不解脫

寬文

卯秋七月

卅山波門妙子述

そのつゝ島よを滿（便）て人時を火とすてしつゝは

此の境域鳴り約とあり一年を凡そ皮に軒前の境  
海へ吹流ち傍海へ飛入障子繩と竹を以て川上  
とや海の深き世あるまると云磯山はあり是島先なる島も  
善積と云ハ北磯松と云四百石余なる島那彦根に納  
と云け磯山のとむりハ城山あり中川を曰ツ川と云  
けし川と渡松多く入る磯山あり世傳の浦へ海上城  
渡能渡能と云云

- 一 松系なる山邊彦根山系并世納前なる橋と十五
- 一 奥島 奥は島島山と云俗に沖島と云人歌に云十あり

さるあるまると云半八十云ハ彦根と下半八十云伊  
石動のと云藩に那の島ありと云

- 一 長命寺山中に施行山ト云又佐和山氏云北伊  
崎ト云不動在江村有白部九山
- 一 手濱 奥島 中ノ庄 北津田 入口十五  
間之橋有此謂渡合橋ト新田八町洲ス  
がら右此島之中にあり
- 一 八幡宮山 水山麓通謂之ハ幡細江昔関  
白秀次公御取立之可有金城山也



- 一 瀧下り十八間瀧坪八間四方無雨有東風川
- 一 水出龍神岩有云自勢田龍神通于此
- 一 閑津奥大瀧有落八間雨後影瀧也と云
- 一 松尾山奥熊野龍王瀧有流少日野祢田川
- 一 霧降瀧北敵山有二宮後山有落三間
- 一 音無瀧比敵山西坂有
- 一 西門瀧又云樓門瀧如意嶽  
洛東江流出此曰三井西川ノ瀧下
- 一 山上不動坂瀧一丈落一善谷瀧  
鳥居本謂山中ハ入所有此瀧ニアケハ頭痛ト云
- 一 逢坂走井瀧落一丈

一 石山奥極谷澁也川旱水時鹿飛瀧ノ如  
落此極谷乃云有リ 瀨織津姬命抜

吾あて極谷よふてゆりて年とてぬるれをさるよ  
水上六極谷やけくらくら吾あてす字治の川長極井基在  
極井基佐云者大津人也俗名云弥四郎入  
道云永仙宮中務久我祖流也ト云  
基佐與宗祇同時連歌達人也或席基佐花  
其々ト云竹ト云吐宗祇花ト云めりし  
若有本歌否基佐應曰有古歌古歌當意ニ

吟詠各席散而後宗祇以前之歌亦難基對  
以實宗感之云

此咲葩谷落瀧莫自神代有之委有祝本記

岩土精爲石

一 沖白石或ハ化石ト云天竺ヨリ下ト云石也法華直

談出

一 三寶荒神山ノ蛇石

天竺ヨリ來石也日ニ三國傳記  
委出ニ三國傳記

一 石山靈石也維石巖々矣

一 西塔毒龍石此有岩故西塔ノ住僧知命也云

因之靜觀僧正加持之大雨下後岩半碎此

ヨリ後無障三國傳記出

一 三尊石 横川有

一 五百羅漢石 横川有

一 天神登天石 叡山法性房庭有

一 自鬚釣垂石 横川ノ山半腹有

一 石山山前白鬚釣壇石有

一 衣掛岩 八王子峰有

一 護法石 横川中堂前有

一 三尾影向石 三井琴緒谷<sup>谷</sup>有  
 一 蔓多羅石 三井二王門前小石敷地又  
 一 千石岩 三井山上。有昔岩神社有云  
 一 流石 大津ノ浦。有石ノ面廣シ昔ハ里人此石  
 上ニテ遊會セシト也今ハ石ノ下ニテ總有  
 一 鎧岩 如五色錦之北小松白鬚明神迄海辺有節  
 所十リ 近松嵐齋子  
 一 羈客來茲相若<sup>此</sup>時 石頭幸碑確漣漪  
 何人乘鎧大平ノ日 化作怪岩湖水涯  
 一 依藤太月見石 大津花階寺有

一 歷海尻掛石 石山西ノ方有  
 一 夫婦石 櫻谷隔川大石双方有  
 一 夫婦石 八幡女坂ノ前有  
 一 龍神遺愛石 鹿飛有  
 一 八島皆岩並座勢多川中<sup>中</sup>有  
 一 岩間石 一ノ田村大岩蛇栖岩也  
 一 鏡岩 似仙人圍碁  
 一 岩倉岩 山上山下大石有臼切石出  
 一 影向石 田上山有 一日武尊腰掛岩  
 醒井清水之内建由

- 一 永源寺隨意岩石 初ハ飯高山後改瑞石山院号  
云合空院
- 一 武佐長光寺 女尾石 一 腰掛岩 多賀有  
古志中坊
- 一 萱尾 龍神石 一 師子岩 掃部頭殿塚有
- 一 大崎寺海涯岩絶景 一 靈石 中川瀬兵衛討  
死之場有之
- 一 彦根長之海邊天石
- 一 逢坂學問石車轍ノ石也
- 一 急須ノ岩 三井寺上有
- 一 兒岩 同断有 一天王石 奥島有
- 一 木戸石 庭石有

- 一 沖島石 普請石也
- 一 名不ノ石 松原磯山西方ニ海中ニ有昔曰木ノ  
御子ノ御廟ト云
- 一 箕浦 岩脚村大石有高十間余上弘法大師  
刻佛形石如鏡光照水無漁故西浦ノ  
獵師以薪木石面汚之
- 一 己高山 山下ニ鏡石此山十八町上
- 一 御井寺關伽井靈水故有其号昔三代帝王  
汲結ヨリ云尔智證大師改三井寺西  
巖有



さう浪や弄れむの汲あけていつくも未成なるあう人々朝  
熟るれハヤ白波とよむかれる井志清なる清く水

初開、靈區八百年青龍金利現江天樹林春

色星霜石只見晚風、涌井泉游記 誓陽

一 関清水いし一平塔ノ下ニ有 之名抄云 統古今開明神

前よりまけ水ヲ用故町ヲ関と清なる町ト云 奇ニ此  
此井とよめり

あふ坂の園に清なる熟るてとまひくらんを月の約

一 逢坂走井水 今一里塚前有

後涌井華 鐘秀精 走流勢 治有餘清

尋常難比 貪泉水 一 軟自知 夾客情 立開

はしり井の懸樋乃事務ハふる門と名乗る又ゆるを月の約

走井の初と名しりや坂の園にゆるタウけ乃らす

一 志賀山中此井多又あつきの山乃井とも云

志賀のふこにてし井のししきと云るらんれ

六 くれら熟ありよめり

流やの志賀に山乃井此河をくもくはわつこめり 有之

明くそいさむして人お坂の園より帝山の井乃多 是漢

一大津練貫三井麓涌泉有海水井ヨリ至テ  
 輕冷水也庭訓云大津練貫出池邊禪寺有  
 大練寺ト出一説云昔天智天皇時御衣子リ  
 又キス、キシヨリト云  
 一 鴨戸ろふろ 膳所河原の濱田畠ノ宮前ト云  
 一 乙水前ノ多 坂本穴太の上ノあやじりヤ  
 けん院灌頂ノ用ノ多也又云叡山大茲坊阿  
 闍梨堅昭智行兼備ノ人也此子栖て闍伽水  
 密師穴太流有之此聖昭元祖也此香水病

人ニ用て好して天和三年春方乙御前ノ香水都  
 鄙遠境來竹筒入通し貯て御前ノ水ハ筒ト  
 してと云る也又しう叡止矣水ハ筒ト有之

- 一 井ノ房靈水有叡山東塔南谷有
- 一 慈惠大師獨銚水 叡山華藏院有
- 一 水飲水 同本坂ノ半途有
- 一 井慶水 西塔有叡峰記詳
- 一 安然獨銚水 三井近松有
- 一 不動水 同金堂後有

一 貧乏水

同護法官前有

一 仙人水

三井南谷有

一 千原清水

坂本ノ田ノ中有

一 水口松尾川邊清水昔軍士乃首と此流

少て洗ししを仔細系宮人此多と不飲と云

一 醒井ノ水マタラロナ八岐大蛇素サノヲ命ミコト恨此山中出爲

災命ミコト御脚熱玉流水ホトリ冷給ホトリ忽熟醒ホトリ依

之各醒井ホトリ

又曰日本武尊ヤマト東夷征代時歸玉時毒矢ノ瘡

洗也熱ホトリ醒井ノ中石有是尊腰掛石

俗云傳今其石傍日本武尊腰掛石ホトリ金字銘

アリ

一 大上郡十五村出水一安清水大上郡同心町有谷水

一 勢田河八百八川合而入南溟此ホトリ住し莫

迄風味宜

一 池 説文曰池守地鐘水也聖德太子

召田村王子治田池塘造池往々

天下無元早之憂而百姓有豊饒説

- 一 三井寺ニ尾ヶ池ニ王門ノ下町ニ有
- 一 月見池 金堂ノ下有
- 一 浄明池 筒井ニ有
- 一 さくま池 三井ノ山上ニ有
- 一 大舟小舟ヶ池 千石岩渡有
- 一 平津ひらつ崎さきつゝつヶ池
- 一 芦浦あしうら四十八曲よじゅうはちまがノ池い少々すくノ池い共云
- 一 外畠ほかはた廻り淵
- 一 田上川ノ邊ニ大塔ヶ池

- 一 石山ニ雨乞ノ池
- 一 目川村ニ川カハ面池
- 一 膳所だんじょヶけろろノ池
- 一 梅ヶ原うめがはらニ杜若ノ沼ノ内ニ名池あり
- 一 野路のろニ月ノ輪池
- 一 坂本さかもとニ月見池
- 一 堅田かたニ鶴ノ池
- 一 ありろありろ池 唐湯ノ上ニ
- 一 八幡永原やわたノ池

- 一 長濱上木の池
- 一 小谷山後の池奥池
- 一 藤原の池
- 一 甲賀谷池原の池
- 一 日野 藤兵衛池
- 一 姫の池 佐和山古城有
- 一 箕作下の池 名水有ゆとのく井と云
- 一 龍禪寺池 大久保殿ありの池と云
- 一 荒川池 浅井郡八島村上有
- 一 薬水 荒神山後下有 岩間あり也
- 一 石飲水 愛智川の邊有 毒有と云
- 一 観音の池 川水有霊水と云

谷名所

- 一 信樂谷 七里半山中谷
- 一 甲賀谷 大津谷
- 一 日野谷 比良谷
- 一 中郡谷 朽木二里半谷
- 一 伊吹谷 叡山谷
- 一 小谷 長等谷
- 一 伊香谷 大谷
- 一 塩津谷 草野谷
- 一 坂

一 叡山東赤坂 西ニ雲母坂 東ニ東坂木上云 西京ヲ西坂ト云

一 横川奈良坂 飯室坂

一 朽木ニ二里ノ坂

一 大杉ニ山中ノ坂

一 海津ヨリ大浦越ノ坂 山中ノ坂 椿<sup>ツツキ</sup>坂

一 塩津ヨリ岩ノ熊坂 沓掛ノ坂 権現坂 塩津

一 ほりの浦坂 地獄坂 沱山坂

一 山梨坂 コヅ坂 刀多根坂 抄子峠坂

一 己高見坂 木本ニアツトリ越坂 草野坂

一 観音護國寺越坂 太郎尾坂 すり針坂

一 清水鼻坂 日野ノヤ坂 熊野坂

一 田上不動坂 三太寺越坂

一 蟹坂 金勝寺坂 大塔越坂

一 長命寺山坂 観音寺山坂 志賀山中坂

一 小關越坂 逢坂

一 杉坂 多賀ノ奥弘法法師ノ一ノシラコノ一ニ迄ノ坂

一 小関越坂 逢坂

一 小関越坂 逢坂

一 觀音坂 志津嶽有

草木

一 唐崎一松 一 原山太子隱玉松有

一 千枝藤 千枝百哥 載一代集 一 微妙寺花見松

一 下坂本七本柳 一 釣笠松

一 松原並木松 一 支那地藏堂柳

一 八幡女坂松 一 石山黒染櫻

一 延勝寺洲崎柳 一 石ヶ崎一本松

一 三井金堂櫻 一 大津御藏柳

一 小松磯松 一 高島酒波松 一 笠原大日蓮

一 勢多中島松 一 堅田滋賀山櫻 一 支那蓮

一 平松松 一 坂本東照宮前櫻

一 水保竹蓮寺藤 一 支那七条松

一 三井近松藤 一 飯室安樂寺菩提樹

一 膳所高木 一 三井新羅蘓鐵

一 神崎梨聞唐笠松 一 米原杜若 ツクニ 杜若也

一 多賀飯森木 一 長命寺竹

一 彦根北野寺松 一 三香下三葉

一 鳥居本梨 一切通相生松

一 洲崎大者

一 西浦 柳ヶ崎 苗ヶ崎 堅田出崎

一 小松崎 うち崎 大崎

一 流ら崎 ちり崎

一 木濱 八崎有 東浦まきの島 加ら内崎

一 丸田ヶ崎 志那崎 山田崎 磯山明王崎

一 荒神山、唐ヶ崎

近江地記卷第四終



五山與齋卷四

開

Faint vertical text columns on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

神宮

神

神

神

神

神

神

神

神

三

大

五

三

起

黃

吉

八

長等標題

園城寺草創

祖堂教待

新羅明神

三尾明神

護法善神

金堂彌勒

關加井

新宮權現

十八明神

住吉明神

黃不動

泣不動

梵鐘

正法寺

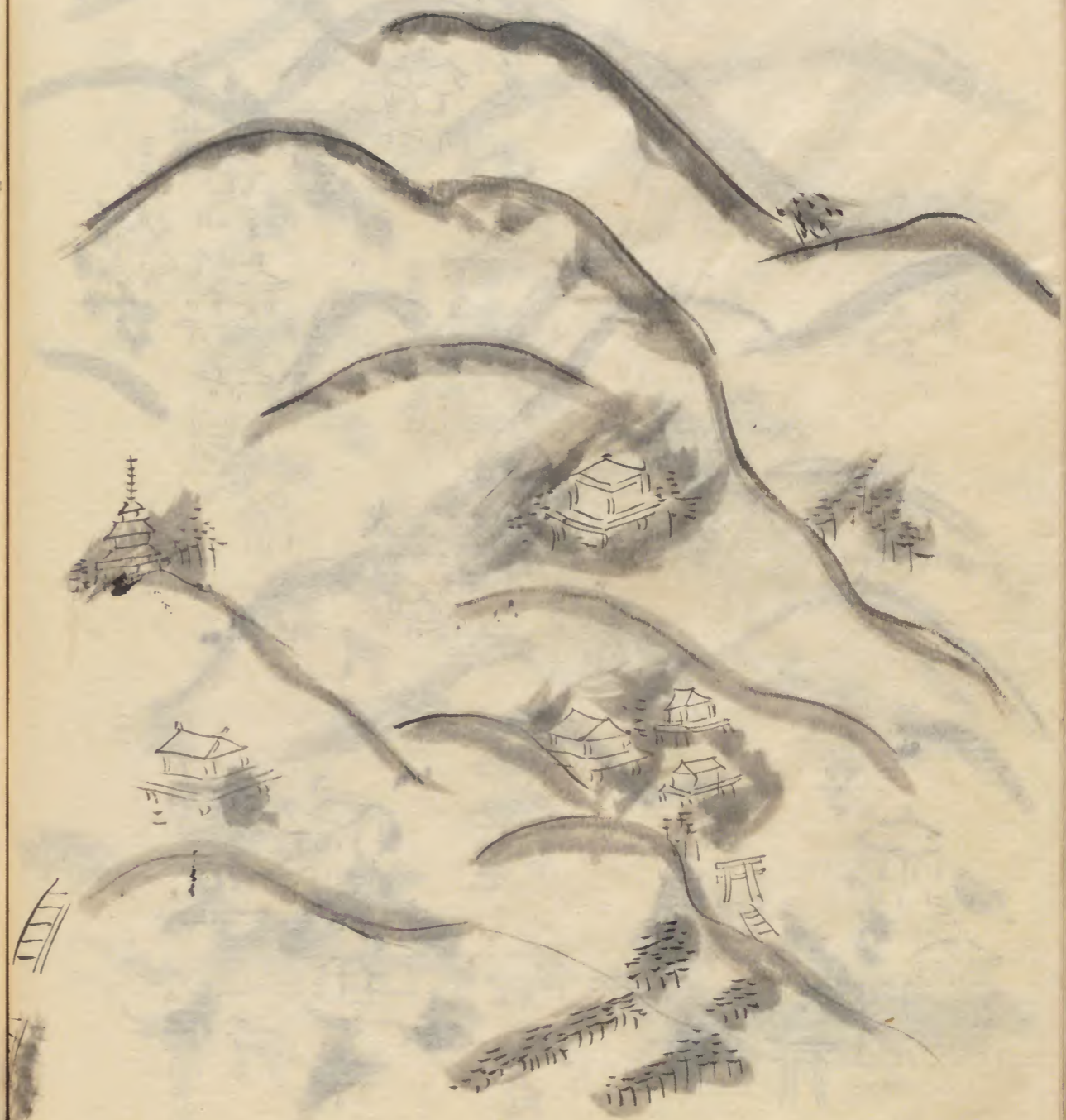
大師堂

三院





園城寺草創五  
 園城寺者大津王子之所建也初天智天  
 皇六年春三月自朝倉宮遷都于江州滋賀  
 此謂大津宮七年春正月天皇即位欲營  
 大伽藍未得勝境二月三日夜夢比丘奏曰  
 指乾隅而告靈區夢覺猶如彷彿輒明有出  
 御干阼階望映於天一方則焰光射西北之  
 墟也乃命大友連櫻井見之皆曰其為祥介  
 命散岐村王大石石川忠美老等察物色群



臣反命曰、光所看字傍桂瀑布、有優婆塞梵  
誦不絕、臣等誰何、莫對自若、視其容止、離倫  
道士也、達于四聰、行幸其地、優婆塞出、應勅  
曰、此地樂樂浪長等山古仙伏藏之處也、言  
已去、不復見、上夢知、惟肖申命大友皇子、  
小字阿羅丸、建精舍、榜曰崇福寺、或作建福  
天智之御子、福院安文六羽勒云、像也、異日將夷基趾、得  
五尺寶鐸、及五尺白石、夜有光、竒瑞升聞、自  
斬左手、無名指、而納寺燈幢石壇之下矣、八

年九年十年春三月於山御井傍敷諸神座  
而班幣帛、中臣金連宣夏五月大友任攝政  
冬十月大海天智之前是為太子、雖然有皇  
子在、未自謙、辭以病、竟請薙髮、而入于吉野、  
十二月初三日、天皇崩、寶算五十七、或曰出  
水鏡、大駕一日南巡、而不還、築陵於山科、駐  
沓地、謚天智、明年夏五月、大友聚兵於山  
背、謀天武、竟陳于勢田、大戰、大友之師敗績、  
倚山前自縊而死、齒二十五自是大津大内廢墟、

矣此謂壬申亂也歌客之詠歎儀監于舊誌  
樂浪也大津乃宮波名乃弥志天霞多那  
此氣見野木茂留那之出于拾遺人丸  
四海革命秋九月天武移和州岡本宮  
白鳳二年癸酉春二月天武即位是謂淨  
見原天  
皇茲有大友氏與多者天武之孫  
大友之子恭奉亡人  
顧命於帝創寺此所由徙崇福寺于園城寺  
也

傳曰園城寺者設為隣於御園得其名又

曰大友悔前非而有顧命與多毀其宮城  
寺成為竹園造之故改易号園城寺其世  
俗謂之御井寺大友皇子在速懷作冷而  
知其悔過詩曰道德兼天訓鹽梅寄真宰  
羞無監撫術安能臨四海惜哉前過一步  
鳥兔代謝於此圓珎師出而天安二年歸朝  
之後新羅山王與珎步自叡岳至于園城問  
故於寺僧老比丘來曰我名教待年一百六  
十有二寺成以來過我壽者殆二十歲現今

有檀家之孫請問彼云出釋書

評曰待者自天王七年迄天安二年三重

甲子待之柶老干園城蓋一百六十二年

矣又曰待曰過我壽者殆二十歲今有檀

家之孫者此指與多之子都堵牟磨呂行

年一百四十七是黑主之文也出顯史及乘記

呼來彼人大伴氏都堵牟受命大友氏改大伴出而解權輿

待之日者說師之自誕育覃遊學而將至于

此院也吾猶見其掌是不亦謂焉耳先呈寺

奉於珍曰再興時有三尾神出饗膳諸新羅

神待入賀珍切問御井事大伴氏對曰寺之

西巖有靈沼天智天武持統三王即位掘此

井以奉浴湯因而有其号珍聞之宜改御井

為三井曰取三皇浴井龍華會之義矣山鐘

神秀恰侶唐青龍回難合符三井稱意報然

而去詣干闥此事必聞帝五十六葉清和天皇

詔營一字名曰唐院所以收藏唐經寶器而

為傳法權頂之道刹也越三尾神者為地主

權現也新羅者止于寺北山王者雖還車於  
我社建社于影回之地護法者自捨焉共脩  
神祠祭以春秋煌々神明熙々佛日粲然復  
明於世百爾器備而後山者曰則長等寺曰  
則三井院者曰則唐院大友氏之所捨四至  
畎畔如舊免官稅永供寺供而世所以爲聖  
主之教願寺其來也尚矣

祖堂

教退居士 或作曉臺此謂明星之靈也 不知

何許人亦幾年道遠于湖嶺自一朝示德輝  
於天王古刹新成待之在園城寺亦久矣  
天安二年圓珍與新羅山王二神及二比丘  
出新羅記 各相勝區到于此待嘗曰當寺  
主者已生焉或入唐焉又曰來何晚今晨亦  
曰寺主來也豈不奇哉友氏與待付寺券於  
珍此時待見三尾新羅卒韜光晦迹珍問新  
羅神曰待去而不見何也新羅曰止々彼待  
乎慈氏之化現也今已得師又何存焉珍寔



額而復坐問大友氏曰待之在曰有何行業  
大友氏曰平生不食堂齋而時泛干淡海釣  
魚鱉喰之暇日開釋部日照仙錄歷歲此寺  
一百六十二年未知往日春秋也聞已不見  
嗟夫痛哉卒與大眾詣待之窟唯有殘橐魚  
皆悉化藕蓮衆出曰奇哉々々聚之指其所  
埋名曰龜丘又曰鱗甲懸香餅而困聚呼其  
地号曰龜泣橋  
万代尔千代遠ヲ加佐祢天ヤサネ祈類哉イ龜乃岳奈類ノヲナ

松乃美登里尔ニ出後拾遺  
待有嘗同志者博始射教忍道士トモ壽量八百  
歲所謂博始射在干琴尾谷清水寺行敵居  
士壽考七百歲別所記曰待者敵之婿也有  
子十一人待也自園城到山崎別業路過洛  
東山麓其木履之響有若集城道之韻故造  
今傳其得名廟堂在余堂之後每祭十一  
月十一日  
新羅大明神  
北院現在谷鎮座

新羅明神者仁壽三年圓珎入唐云年自唐  
歸路解纜導海忽有幡々者叟現船曰我是  
新羅國之神也素誓護持於師之教法長到  
慈氏之下生語已不見風濤澆滲歸帆如矢  
著肥州松浦珎入洛將傳來教藉藏尚書省  
越茲海上翁來謂珎曰經典請朝建別院而  
納之則可也余應加護夫佛法是王道之治  
具佛家若衰王業亦衰告畢而去珎受神言  
歸于叡山王權現現形曰唐典宜藏此山新

羅明神復出曰吾嘗相攸自此南有勝區吾  
將行山王及珎各到干滋賀舊都園城寺寺  
僧教待攝齋出曰來之何晏思暇日淹方對  
芝眉豁如也山王還車於叡阜新羅乘跡於  
等嶺委靈三樞之杉此謂御影杵移光一河  
之流此謂御影川言吾現在於此故謂山王  
現在谷千春萬屬乃左乃右圓饒珎猶視之  
他者不視之然感格神明人焉度哉卑傳明  
神告太伴氏數葉任神職委出新羅記偶有

靈於喻慶耀者蓋所以宿王之照德耀也釋  
書古之祠字嚮於東遙有過宮前敢不敬者  
則有災也自慶祚遷座社於南面未有此變  
矣永承七年秋九月明尊始行新羅之祭祀  
再神託和歌謹納焉  
加良布祢尔乃利守里尔登古之加比波  
有氣留物遠古古乃登滿利尔  
夫神者和歌之祖也新羅法樂歌會有俊成  
褒貶之卷迄于今以供歌法樂爲式

カ  
ラ  
フ  
ミ  
ニ  
ノ  
リ  
テ  
モ  
リ  
ニ  
ト  
コ  
シ  
カ  
ヒ  
ハ  
アリ  
ケ  
ル  
モ  
ソ  
コ  
古  
古  
乃  
登  
滿  
利  
尔  
出  
新  
羅  
記  
袋  
草  
紙

卜部兼邦之說出神社啓蒙啓邦詠曰  
新羅與利三井乃流尔屋土利幾天幾世  
須無經幾神乃意曾  
或曰伊豫守賴義嫡男入寺爲僧曰西蓮坊  
快譽唐子義光事明神自稱名新羅三郎所  
以至甲陽若州兩武田信陽奥州及南部佐  
竹平賀安田小笠原加賀美等世崇源家氏  
祖神者蓋由于茲元龜三年春二月自大  
津浦飛龍火照神扉旬餘夕霽也明哉未單

罄焉舊例秋九月十有九日執行法會祭祀  
廢矣

本社新羅明神本地文殊垂跡素盞烏命

昔素盞烏命帥其子五十猛神降到太唐

新羅國圓珎歸朝之時共浮干海反我姬

氏國垂跡三井云

相殿般若宿王兩尊

般若本地十一面垂跡伊弉諾尊

宿王本地釋迦垂跡天照太神

同日御子本地羅素垂跡五十猛神

三尾大明神南峰琴緒谷鎮守

三尾大明神者惶根尊伊弉諾日雨留女所

謂三神也誕生三尾白蛇高飛五色翠瀾自

高島水尾寄大津浦謂其浦曰大波上曰寄

島謂其靈號曰寄島大明神也竟垂跡於三

井任社於三所岳有神遊之石巖龍臥虎偃

天人降而鼓琴鼓瑟指其谷曰琴瓦谷麋鹿

來而導前擁後指其境曰鹿關有若和神彩

於赤白黑三尾故号曰三尾明神也夫觸臧  
化過存神之妙者耶釋書曰天安二年圓环  
與新羅山王偕照三井有乘輿人來敬饗盛  
饌於新羅時教待來賀三尾神言曰我却初  
以往奉邊久矣將垂跡於此地而爲佛法衛  
護之神條忽放神光人無不瞑眩珍怪之間  
新羅曰奇士爲誰新羅對曰三尾明神是地  
主權現也每歲春三月中卯祭之  
琴尾谷古者作惶根尊本地普賢謂之赤尾

有脇社白山權現本地十一面

筒井谷伊裝諾尊本地十一面謂之白尾

鹿關

或作度木

曰雷女尊本地釋迦謂之黑尾

恭曰舊事記曰十一代垂仁天皇御子磐

撞ツキ命者三尾君等祖也又曰高島水尾

者猿田彦神也所謂新羅曰三尾明神者

地王權現也神言不可以狐疑日東地主

孰大乎是曾舉寺宇指南

以普賢爲中指以文殊爲巨擘其餘可謂

付屬之神也蓋窺本傳頗有參差蒙私舉  
諸說庶幾高明照潤也

護法善神

中谷鎮座

善神者西方美人也常在護法產福子之誓  
日新其德月盛其功昔日圓珍幼有讚州金  
倉寺一不夜不意天女來告珍曰汝是明星之  
精權降闇浮而爲若海用汝則舟則揖迹入  
四明遊期三會時去時來我必現訶利帝母  
至爾法利護爾妙典言畢而去珍長通於方

入唐求法之後興法於園城寺善神出現曰  
願言爰可以贊之一乘以降之百福珍歎然  
不肯之神曰何食言耶對曰設爲方便淑女  
豈不以制梵刹也神曰饒舌我昔在佛所有  
護法誓約今世非我其誰哉况又龍華神阜  
之地此去何之珍讓之曰其道貴則貴矣未  
脫嫌疑而違圓戒神曰吁善哉俯請可與受  
戒而爲尼珍不宿諾安乎中谷故字之号曰  
厄護法善神也俗所謂呼浴髮井曰尾池珍

意善神者爲訶利帝母之介神也衆徒若居  
福庭恐是廢學干業故封之神於寶前之汗  
池噫其謀也賢哉年來夏四月既望挑錦幘  
以薦法味世謂之千團子也

### 關伽井

金堂西階去地數步有慈被泉名曰關伽井  
關伽者淨水也井者泉之清潔也上建畫閣  
下流渥丹神地靈潭也或曰金堂水傳曰昔  
三辰自照於渚常俾九頭之龍呵護於大淵

云  
或曰天智天武持統三帝即位汲此淵而供  
盥漱以奉浴湯因之名御井寺玲師改御之  
字而爲三曰曉三王浴井列于慈氏三會并  
之爲三井自古迄今有修法則必用此泉也

### 金堂

本尊者弥勒佛也或曰慈氏或曰阿逸多菩  
薩崇福記曰昔彌勒等身偶自都率天降大  
唐南岳木師之室而後自百濟弥勒之像始

渡我朝欽明天皇御宇世爲聖主之護身也  
蓋佛像來儀之基乎長等教待移彼弥勒佛  
像爲本尊也圓玲造副無著天親二菩薩屬  
弥勒之挾侍自古弥勒七體存焉

其一曰教待持念之靈像其長丈六有無  
佛蓋失

其二曰推古天皇之教佛黃金佛御長一尺  
二寸也其三曰聖武天皇之應制鑄砂金五  
百兩鑄成御尺四寸  
八分也其四曰行基菩薩自親

鑄銅佛御長五寸  
六分也其五曰御堂關白道長之

本尊白錄之像御長七寸也其六曰大織冠之

本尊黃金像御長七寸  
二分也其七曰黃金像御長

一尺八寸五分未知何作右各幾重  
韞匱而藏每月初五講演

新宮權現

神出村鎮守

天安二年山王新羅及珍自敵岳到干園城  
竟新羅止干寺山王還干敵雖然珍建社於  
影向之地矣寺記曰天喜二年圓滿院明尊



上地遷出宮於山麓呼其卷曰神出村謂其  
社改曰新宮所謂山王權現也舊社之地今  
知者鮮矣比年五月五日祭祀嚴然  
議曰建武二年寺爲兵火回祿矣迄此時  
曰有山王御社十二外廊也然自建武以  
後遷宮在之并且所以屬山王明神於珍  
者蓋在珍之敵岳房干山王明神之座此  
神之受戒之時座也今呼珍之房曰山王  
院故曰珍干山王大師也古今靈通所傳

不可以誣

熊野權現

祠宇闕加井傍

傳曰平治元年復月泱辰長吏前僧正行慶  
之遷坐也曾山王院如紀州熊野適有風雨  
雲遮迷前路不圖靈禽翔來如導翼漸到前  
干祠葦笠未遑解立講法華神排寶戶自是  
熊野下乘八講雖晴天必置葦於講演之座  
左爲式亦彼山若一王子猶慕大師來干敵護  
法行之勸請於此不亦宜哉

黃不動 大師之彫刻在唐坊

圓珍入唐之秋乘狝遊海狀風俄奮決帆擢  
撞漂墮琉球國遙望濱坻數十人橫戈來良  
暉爲之大息語珍曰吾儕當爲琉球取噬奈  
何珍合掌暫念不動尊時有金色之人忽作  
舩尾舟中人皆見之須臾東南風吹幅飽飛  
翼日若福州嘗聞永和五年冬珍觀坐於幽  
龕候忽金色人現形曰汝圖我歸命問爲誰  
應曰不動明王也我念法器故擁護於汝宜

厲志操爲若海之舩筏其形魁偉奇絕珍頓  
雷叩首圖所示相常念是以風濤危害素救  
於明王本誓不空脫其難亦舟中之現形刻  
折播以寫之金色故此謂黃木動

十八明神

南谷筒井鎮守

十八神者藥師七佛經曰僧伽藍之守護神  
也十八神名畧之或曰自慶祚明尊之比慈  
覺智證兩門餘流動而濁其泥又有檀戒立  
不之爭曰之自山無寺一百餘年之間暨數

箇度故封伽藍神每月上旬講日之間

任吉大明神北院鎮守

文永五年隆辨僧正之勸請也夫辨之量數

有風月之才選官僧正為法器也學餘々々

事吟哦而能其方故遷座於數島之神社宇

在北森在

命這三柱神者去來諾尊所變也同處同体

任齊元國守寶祚神也是

齊祠于寺任吉者四座也是

其一藥師其二阿彌弛其三大日其四觀音

評曰夫神明者和光同塵譬如日月照物

昼夜有別至而明也辨信之深思之至矣

寺門別嗜歌者長支行尊真如院僧都公

圓錦織僧都行親證觀法印增珍法師亦

各得歌仙名出袋草紙曾有佛地院時在

歌會云

泣不動舊跡法泉院

證空師事三井智興興嬰疾病醫師扱千氣

息奄奄將絕時有神巫此謂安倍來告衆曰

我有祕符若以人相貸其術可試之雖然

誰肯之空意謂為法捨身則慈也仁也况質

師命則道也義也何辭之哉自歎然約於巫

巫諾而去不日師之病痊矣空早受疾病若

痛惟谷空常念不動尊今又無他不動尊感

空之至孝無詐明王將替空之代病熟見其

像恰侶病患在其憂於此空之病亦頓愈矣

人傳言為奇其昼像淚痕如新世号曰泣不

動尊昔日秘藏之却而失矣

梵鐘

粵稽倭藤太秀鄉自大織冠八代之孫仕兼

平帝到武藏守黜罰朝敵將門任鎮守府將

軍食菜地干東州後封於神也先是秀鄉微

行近江勢田橋為龍神射殺馬蛇不是人力

所及也報以十種寶其中靈鐘送我三井寺

今之卧鐘是也詳出秀鄉之系圖并蒲生記

蓋此鐘相傳曰佛在靈峰時帝釋自切利

天桂鐘於祇園精舍響傳無常四句之偈聽者無宿發也佛涅槃之後神龍來舊此鐘而襲海矣今來此寺不亦奇哉久保二年山徒奪此鐘上於敵種之不鳴谷合力而充巨杵其吼猶曰歸衆徒惡之轉鐘巖下碎破片散而後聚拾之遺于寺一日小蛇來而舉尾敲之鐘如故無批南架樓上而告早晚樂浪也三井乃古寺鐘波阿礼登昔尔加邊留声者聞得須出名寄定圓

文祿元年自五月亦復止鳴今之鐘者聖護

院道證之寄附鐘銘銘曰

園城寺鐘銘 勸進波門謹白

請特蒙十方檀那成就造江州三井寺之

堂社狀

伏惟阿難尊者傳持佛法辱稟釋尊教教為濟度衆生也優填王刻如來尊容示任金口之附屬為利益國家也抑當寺者天智天武持統三代敕願之精舍教待和尚草創也

天台真言俱舍三宗兼學之蘭若智證大師  
再興也有八功德之水和修——吉龍王所栖  
矣爲無熱池之流奉——天子之御產湯焉依  
之玉体無恙敵運無傾身尔称——三井寺佛法  
繁榮日尚矣於是平生身弥勒降自都率結  
三會值偶之緣天竺名鐘出自龍宮鎮唱諸  
行無常之理倩考古記溫來由須達長者建  
祇園精舍十大弟子鑄四方梵鐘今此寺之  
鐘其隨一者乎迺則或時顯胎金兩部諸尊

或時三世諸佛相好加之天下有凶事則汗  
流霏溼民間謳大平則音澄響高傳道一度  
聽鐘色永免三惡苦孰人不運步何輩不拜  
之乎就中吾大師者大聖不動變作盡真言  
上乘密義救世觀音示現窮天台法花淵源  
矣剎也准釋尊苦行昔攀大嶺葛城之嶮岨  
不見役獲婆塞跡司熊野山之檢校障者降  
伏之勤讓矣招福之祈靈驗追日新法咸無  
落地矣然間四海安全併任三井懇祈王法

長久偏依大師法德寺門名譽不可勝計者  
乎唯恨建久之昔燒失七百餘宇爲凶賊都  
爲焦土曆應之古造營一百餘宇亦爲雨露  
損毀悲歎無限愁鬱幾許矣爰某忘躬不堪  
捧一紙化書意馬急鞭敲十方檀門信心貴  
賤有焉則布千金萬斛道俗居女無則施一  
紙半錢宛如不厭巨海於萬流頗等不嫌大  
山於片塵若夫修造功畢結緣隨喜群類現  
世安穩而者千祥萬吉自由自在揭仰皈依

緇素後生善處而者三身萬德無邊無窮矣  
都而自畀他畀有緣無緣親疎遠近平等普  
利仍勸緣之趣蓋以如斯 聖護院道證

正瀝寺

本尊者觀音如意輪珍在唐時自刻旃檀木  
設爲投華之本尊也故爲唐佛古堂倚嶺南  
之隴彌峰跨谷踏之道之也文明十三年  
秋八月南峰者宿荐感瑞夢竟遷堂于正瀝  
嶺是谷也前海後峰一胡壯觀縮此地圓通

遊戲境也西國巡禮爲二七之班歌在人口  
古記曰正法寺觀音者古之如意寺本尊也  
有如意寺十房列林介撩飛層閣山在如意  
輪以爲本尊曰之名曰如意嵩於此將軍義  
晴構御所於東坂下穴太世謂之穴太御所  
爲<sub>ス</sub>成邊我築城于如意嵩<sub>ス</sub>山浚壁間<sub>ス</sub>掩葉  
洗<sub>ス</sub>攢柯丹榭直下之麗譙也<sub>ス</sub>有變而廢矣出  
穴太記夫置觀音于山郭則恐闕大悲故移  
之於正法山云傳曰微妙寺千手觀音昔曰

如意之本尊也未知可否蓋以爲古者如意  
及千手在穹谷也著矣今有<sub>下指</sub>一峯曰如意  
嵩<sub>別有</sub>指<sub>一峯</sub>曰千手谷<sub>兩佛</sub>兩山并存也  
既舉如意輪錯如意寺之本尊則可矣舉千  
手錯如意嵩之本尊則不可矣此即兩端而  
竭焉夫觀音之同体異名則不可以論也暫  
目其境知而得其名故有此論抵牾可以決  
大師堂此謂唐院有宿房曰香養院  
圓珍師讚州郡珂郡人父和氏安成母佐氏



弘法之出也其家富貴其鄉推重佐氏夢乘  
檣浮海仰看朝暎其光赫々飛入口中覺而  
語干夫夫曰吉徵也必生賢子則有弘仁  
六年誕焉形呈岐嶷眼現重瞳天質聰敏雖  
幼而有成童之量嬉戲常爲佛事目者察之  
耳者異之時遊金倉寺或夜天女來告瑞於  
珍漸甫八歲啓父求因果經寐而不忘寤而  
以誦十歲讀葩經魯論史文選十四辭家入  
洛師事義真真喜其才十九薙髮棲干山一

紀薰修精練不怠名達輦下或時明王亟示  
蜜軌矣珍暨南京明全自決擇大義於丹墀  
美譽播朝野喜祥三年春夢山王明神告曰  
入唐求法莫爲滯留隔年靈夢又新珍不堪  
默止乃勤緹夢謹述素懷抗表以聞

上感激志干道制可仁壽三年珍年四十秋  
八月九日偶有唐高飲良暉浪檢干海珍同  
查泛洋乃棹歌曰

能利乃布禰佐志天遊父身曾毛呂々々

野神茂佛茂和禮遠美曾奈邊 出新古今

圓珍八月望著唐之嶺南福州界皆宣宗大  
中七年也刺史韋公將軍林師準錦珍於開  
元寺會有中天竺那闍陀寺三藏般若怛羅  
就學梵字悉曇兼授金剛界大悲胎藏大日  
佛印七俱知曼素室利即法梵夾經等暫止  
于茲又聽存式講喜祥慈恩法華疏華嚴涅  
般疏及俱舍義到温州開元寺得宋本楞伽  
疏并四分新疏遙如台州登天台山入禪林

寺徃徃巡聖跡茲有石鼓智者說法槌之集  
衆智者滅後擊之無聲珍試以小石打之響  
山鳴谷應衆無不駭歎行過靈吉區鬼幽至  
越州開元寺智者九世孫良謬講授台教珍  
寓止矣大中九年六月入長安見青龍寺法  
全受瑜伽密旨及兩部曼荼羅大法同十一  
月請傳法阿闍利位灌頂全有難色珍自明  
王嘗授密軌其解三於全全驚曰此密乘秘  
願子自何得之乎珍告所由全擊節感歎全

之所蘊倒底全付矣又見興善寺三藏智惠  
輪兼兩部大曼羅秘旨兼授新譯經法珍在  
異域積年既而催歸路唐地傳法之中全尤  
深夾全載聖教及法器於櫃追而告曰汝歸  
扶柔遷此青龍山使我之法久傳也是幸矣  
今之三井寺是也同十二年夏乘高人李延  
孝之船不圖新羅明神出扣舷示現乃隱歸  
帆穩至肥州松浦本朝天安二年也聖主使  
官吏勞迎珍上表所得台宗密藏及諸宗經

各一千餘卷悉運納尚書省越有新羅明神  
之告直以聞故命營唐席於園城安置之於  
唐來佛像經藉佛舍利大日金冠錄草鞋灌  
頂之道場可謂三井鴻基再起者也年五十  
六爲延曆寺座主也猶厚其德或爲王法之  
師毓或爲神明之戒師照見其智若鑑若龜  
寬平三年冬十月將死召門人曰如來以法  
爲身比丘以慧爲命苟傳何死之有矣其日  
暮及曉乞水嗽口取伽黎載之右脇而正逝

矣年七十八臘五十九其晨四極間天樂經  
二日將舉簣弟子跪請衣枕其頭自舉自若  
竟葬叡峯南谷東壙八納遺骨于唐房曾受  
阿闍梨位者二百餘人千剃髮爲大比丘尼  
者五百餘人誰不敢服心喪哉况釋子也延  
長五年冬十二月賜謚智證大師迄貞享三  
年星霜八百歲德輝日照年々初冬二十九  
日自前夕大衆登唐坊排圍於大師之影堂  
一日一夜各有健論而後脩法義世謂之大

講

智證大師尊像

智辨之彫刻出釋書

左黃不動

傳出干右

右大師之遺骨

實相院義延親王御所岩倉

後西院宮御子御母新大納言殿御腹

御宿坊 中院善光院

坊官 芝之坊

四百二石五斗

坐落

聖護院道祐親王御所聖護院村

後西院宮御子御母六位局元祿三年庚

午霜月葬

御宿坊 北院淨光院

坊官 岩之坊

坊官 雜務

冠木山修驗 千四百三石四斗

圓滿院行惠親王御所北院

後西院宮御子御母按察使局高辻豐長

御女

坊官 今十四 西之坊

四百十九石

實相院圓滿院謂之公方門跡

三院所謂北院中院南院

永正文明之比房負有八百五十九院今有

五十坊 右出寺帳記

北嶽古一百六十房今十七房

圓滿院 佛地院 花光坊 淨光院

喜見院 慶音院 韻華院 王性院

勝學院 覺林坊 五智院 等覺院

寶善院 東園院 千葉院 三藏院

堯雲院 圓藏院 千葉院 三藏院

中谷古一百一房 今十四房

日光院 光淨院 玉藏院 慈定院

官付靈鷲院 官付法光院 官付華臺院

本行院 三光院 自性院 玉林院

智增院 賢乘院 善見坊 一乘坊

南峯古一百六十一房 今十九房

勸學院 僧正 金乘院 北林坊

法泉坊 官付理學院 圓宗院 學祥院

實成院

正泉坊 龍乘院 千乘院 真如院

最樂坊 本壽院 大泉坊 正三院

万徳院 常林院 寶禪坊 聖林院

五別所

尾藏院 近松寺 微妙寺 常在寺

水觀寺

尾藏寺者 教待和尚之開基本尊者十一

面也今之本尊者天滿天神之作也頂相辨

天全軀毗沙門雙脚大黑此謂一体三面佛

也首在志賀寺別号曰笠脱觀音也

本行記 三卷 尾藏院 自註

鎮守府將軍兼陸奥守源朝臣頼義之勸

請也西蓮坊阿闍利快譽所以遷座也歲

在康平六年夏屬四月初三

慶祚大阿闍梨之石像在此竹林

一條院御宇正曆四年秋八月在法性寺座

王之爭慈覺智證兩門相孽祚避難於岩倉

大雲寺不幾遷園城栖邊千尾藏龍雲坊於

此負笈者麈集鳥群枕園殷曷矣久爲三井

灌頂之中興也

永曆二年夏四月後白河法皇幸于園城  
入於尾藏院龍雲坊恭禮祚之影像可謂  
祚之德至也詳出千新羅記寺傳記別所  
記那智菴王記盛衰記釋書等也  
專藏坊蓮泉坊淨教坊寶林坊  
玄養坊  
微妙寺者教待老子之鴻基慶祚之中興  
也

本尊者十一面觀音也

藥師堂今之本尊者傳云古滋賀寺之佛

也

觀音堂千手此謂如意寺之佛也

明王堂石不動也智證之作

寺古七十有九席今五坊

王藏坊慈性坊專光坊千珠坊

珠光坊

近松寺者教待仙士之權輿智證之覆貴



安然之中興也此地由來隱士置散曾設  
教待教忍行敵著神仙之會於此共得換  
骨而入仙府故得微号也蓋以觸松葉松  
華也本尊者千千也大師作

如來堂本尊者闍浮檀金三尊佛也

傳曰信州善光寺如來與此同佛也曾自元  
慶帝賜此三尊佛於安然々置於斯矣長安  
四年春三月惠心院源信來此谷并三尊自  
親刻一寸八分如來像十佛同置本尊之右

俗謂之近松千體也

安然和尚塚墓

在峯頭

安然相州星野人傳教之系族也性俊敏邁  
久早登千叡拱衣於慈覺之室顯密奧秘無  
不別決又就花山遍照受胎藏法凡涉禪經  
論充元慶寺阿闍梨位平日述作孔多曰菩  
提心義教時諱論草木成佛普通廣釋不苔  
披蓮華觀其餘畧矣終慕智證之法水駐錫  
于近松斯谷也地幽釋氏所盤桓也雖然林

間水之自以獨鈎穿巖畔清泉混々盈科而  
挹關伽名曰獨鈎水生涯處貧自玉終老干  
茲自近松別堂

世喜寺明神

明神者蟬丸之靈也海道記蟬丸者延喜

帝弟四宮也仍呼流憇之地謂四宮河原

備異論

關寺者古之本尊者五大弥勒本朝三大佛  
之其一也保元三年夏四月初行龍華會於

茲万壽二年六月念日師長卿誌關寺之事  
額行成卿之默墨也各陳迹云

寺古一百二十有六房今五坊

東實坊 定光坊 法松坊 昌光坊

光藏坊

常在寺 本尊者釋迦鎮守熊野權現

寺古六十有八房今五房

圓光坊 教覺坊 成圓坊 圓智坊

常實坊

水願寺

本尊者藥師觀音

鎮守者護法善神

寺古者六十有八房今五房

財林坊

唯覺坊

財門坊

財泉坊

喜覺坊

志賀郡四千六百十九石九斗九升三合

寺知也

內百三十石

時宗

莊嚴寺

內四十四石

南宗

顯證寺

寺門四至境界

東神出村新別所西藤尾

如意嵩南三別所會坂山北志賀見也

三役者

玉林院

覺林坊

最樂坊

公文所

右京

民部

式部

一護摩堂本尊不動大日

法皇之御寄進

一三重堂本尊釋迦文殊普賢

征夷將軍家  
康卿御寄附

一二五門本國新出征夷將軍家康卿之御

寄附

一一一切經 尊氏將軍之御寄附

一金堂 淺井長政息女大閤政

公文所御再興

一新羅社 三尾社 十八神社

三尊氏御之御再興

園城寺初祖

東林寺

教待

中興 圓珍 寬德二年補長吏

入王明尊 長德三年補長吏

勸修

行尊 永久四年補長吏

慶祚 慶耀 宗軌 學助

珍蓮

敵効 公伊 行圓 證空

右傳出釋書

將軍賴義卿系緒

滿仲嫡男賴光

嫡男賴義將軍伊豫守

義家鎮守府將軍八幡太郎

義光新羅三郎作平賀武田祖

弟賴親大和守從四位下

有男快譽阿闍利

義繼網加茂次郎又

人王第三十九葉

天智天皇

諱天命開別更名葛城皇子十三

代舒明帝太子也母曰天豐財

重日足

天皇六年春三月遷都近江曰号大津宮

又近江帝十年冬十二月三日崩在十八

歲葬山代山

持統天皇 天智第二皇女天武后御母

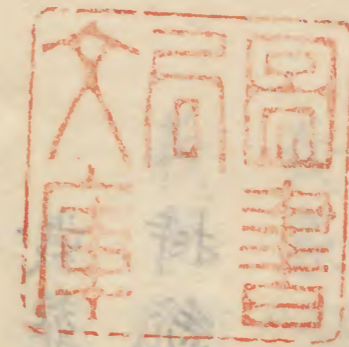
越智姬大臣藤我山

草壁皇子母也女帝

四十一代

天武天皇 諱天淳中原備真人幼曰大海

人後号淨見原  
天智帝同母帝也持統帝爲皇后生  
草壁皇子後四十二代文武天皇卜云



天智天皇  
天智天皇二皇女天女  
山外山  
天智天皇十一年三月三日崩十六

近江地記卷第五終

天皇  
天皇  
天皇  
天皇  
天皇  
天皇  
天皇  
天皇  
天皇  
天皇

